令和４年５月１９日
沖 縄 地 区 税 関

沖縄地区税関・本土復帰特集
～輸出編～

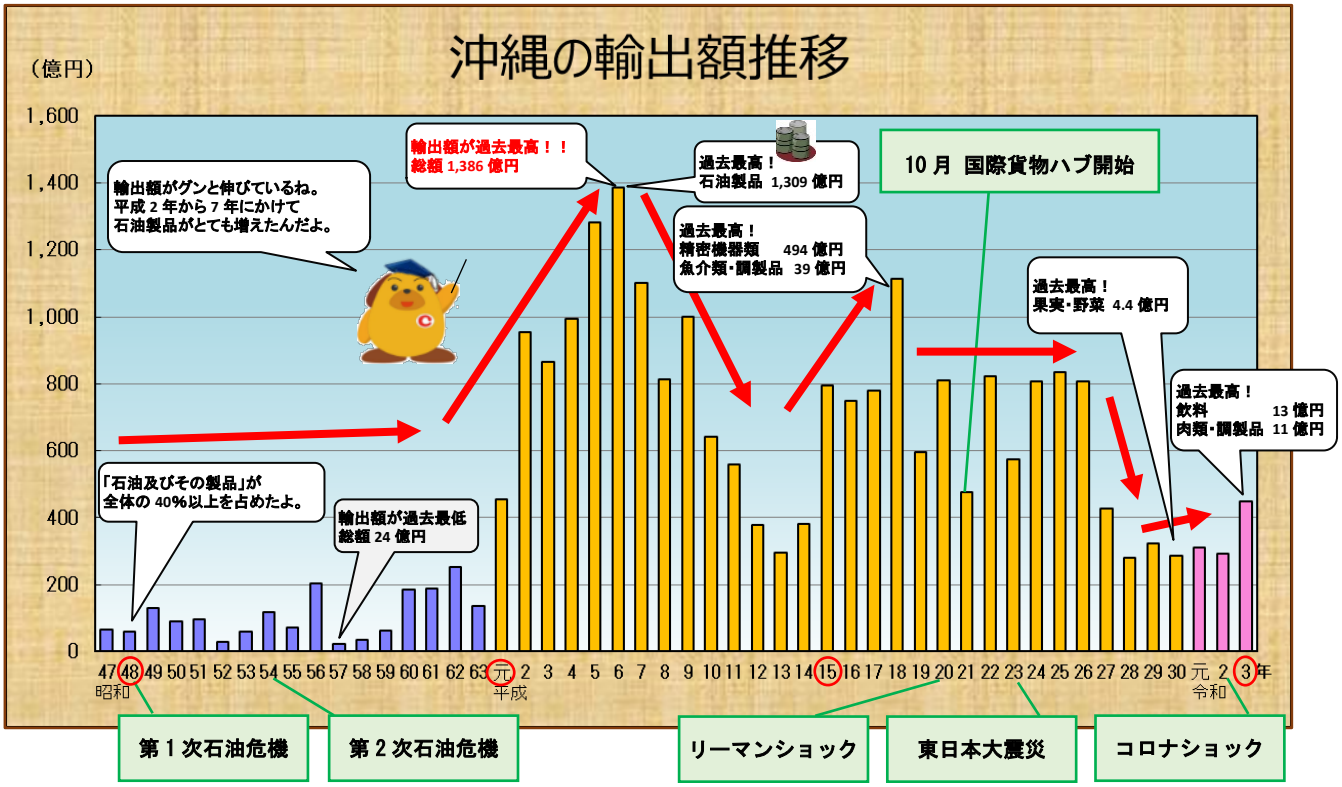
総　　額	輸出総額：　２兆 4,783 億 25 百万円
	輸入総額：13 兆　529 億 52 百万円
貿易収支	10 兆 5,746 億 27 百万円の輸入超過
主要品目	輸出：石油製品（1 兆 2,950 億 26 百万円、構成比：52.3%）
	輸入：原粗油（8 兆 8,834 億円、構成比：68.1%）
主要国・地域	輸出：台湾（6,705 億 37 百万円）
	輸入：サウジアラビア（2 兆 3,253 億 44 百万円）

（※本土に復帰した昭和 47（1972）年５月 15 日以降、令和４（2022）年３月までの合計額から算出）

はじめに

今から 50 年前の昭和 47（1972）年５月 15 日に沖縄は日本に復帰しました。令和４（2022）年の今年は復帰 50 周年にあたります。今回は沖縄地区税関管内における復帰後の貿易動向について特集することとし、今月は輸出編をお届けします。

輸出動向



戦後初めて輸出が行われたのは昭和 21（1946）年、日本本土向けにリン鉱石と黒糖が輸出されま

した。当時は米軍下の琉球貿易庁を通じた政府管理型の貿易形態で、民間貿易が再開したのは昭和 25（1950）年、主な輸出品は砂糖、スクラップ、パインでした。復帰前の沖縄は対本土との貿易が中心で、対世界貿易は非常に小さいものでした。復帰後から現在まで共通しているのは、化学工業品（石油製品）や機械工業品（輸送用機器、一般機械など）の輸出額が大きな割合を占めていることです。

昭和期は「石油及びその製品」が主な輸出品目でした。しかし県内の石油精製が本格稼働するのが昭和 60 年以降だったことから、その前は輸出量、金額ともに小規模でした。当時は軽油、灯油、揮発油などを精製しており、精製の際にできる副産物の硫黄も主要な輸出品でした。

平成に入ると石油の受託精製がピークを迎えます。生産された石油製品（軽油やジェット燃料など）は海外へ輸出され、平成 6（1994）年には輸出額が歴代最高額（1,386 億円）を記録しました。しかし平成 26（2014）年に石油精製工場が閉鎖すると、翌年から輸出額全体が大幅に下がりました。石油製品は輸出全体に占める割合が大きいことから、輸出の有無は輸出額に即影響しました。

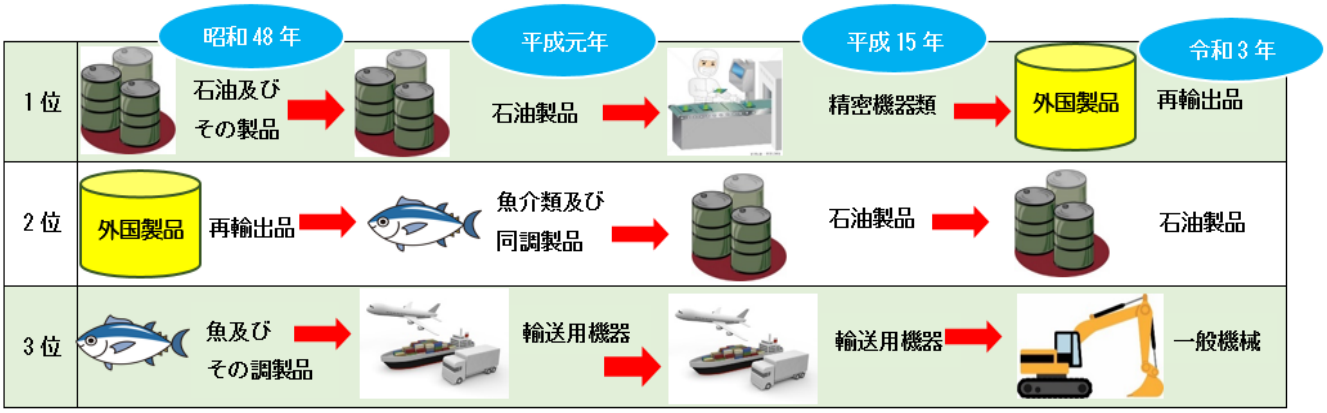
その後、輸出に第二のピークが訪れたのは平成 18（2006）年。品目第 1 位は「精密機器類」（494 億円）で、台湾向けの科学光学機器が輸出額を押し上げました。

また、那覇空港では平成 21（2009）年 10 月に国際貨物ハブ事業が沖縄県の主導でスタートしました。県産品はもちろんのこと、日本全国から各地の特産品が沖縄に集まりアジアへ輸出されるため、平成 30（2018）年は「果実及び野菜」が 4.4 億円を記録し過去最高となりました。

令和に入ると間もなく新型コロナウイルス感染症が世界的に大流行しました。世界のいたるところで物流の混乱が今なお続いています。沖縄では令和 2（2020）年 4 月から那覇空港を発着する国際貨物便が運休し、航空貨物は打撃を受けている状況です。それでも、一部の貨物は回復が早く、コロナ禍にもかかわらず令和 3（2021）年は「肉類及び同調製品」が、また海上輸送がメインである「飲料」が過去最高を記録しました。

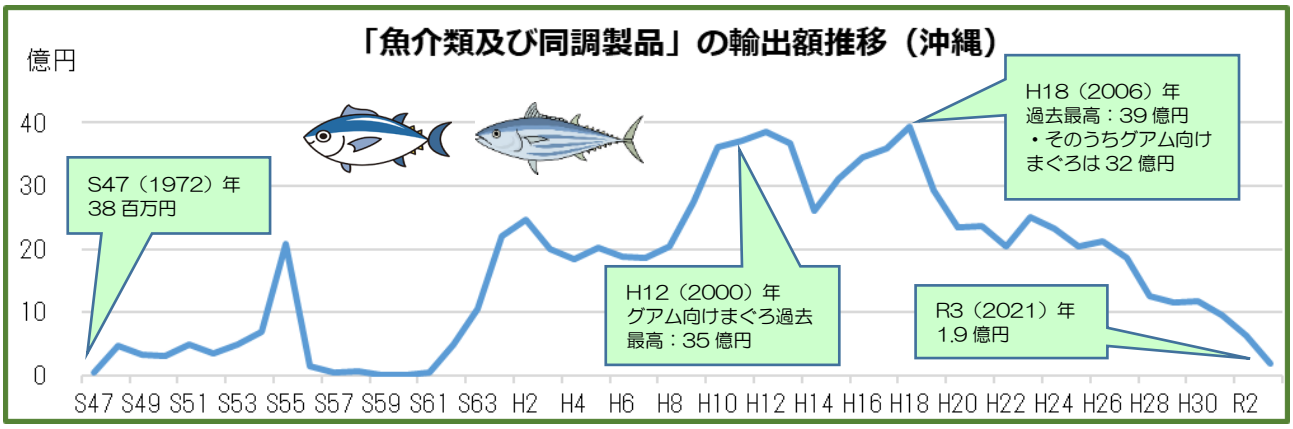
品目別動向

次に主な輸出品目の移り変わりを見てみましょう。化学工業品（石油製品）や機械工業品（輸送用機器、一般機械）の輸出が上位を占めているのがわかります。再輸出品とは本邦から輸出する外国産貨物のことです。



さて次は古くから輸出が行われている品目の中から「魚介類及び同調製品」及び「果実及び野菜」について見ていきましょう。

「魚介類及び同調製品」



輸出品目ランキングの上位に挙がったこともある品目です。なかでも特徴的なのが、沖縄県船籍の漁船が公海上で採捕した水産物を外国に輸出する「洋上輸出」ではないでしょうか。輸出した水産物（まぐろ）は日本へ再輸入され、豊洲市場などの大きな市場でセリにかけられた後、高級マグロとして飲食店などへ運ばれます。

「魚介類及び同調製品」のピークは平成 18（2006）年で金額が 39 億円に上りました。そのうちグアム向けのまぐろは 32 億円（82.2%）でした。同年のグアム向けまぐろの全国比は沖縄が 98.7%を占めています。しかしまぐろ漁を取り巻く環境は年々厳しくなり漁獲量が減少していくなか、令和２（2020）年の新型コロナウイルス感染拡大の影響で出漁を断念し、以後は輸出実績がありません。関係者によると、グアム発日本行きの航空便が減便となり、航空輸送が困難になったことが大きな痛手となったそうで、今後も出漁再開の見通しは不透明とのことです。

「魚介類及び同調製品」の主な輸出先は昭和 62（1987）年以降 34 年間グアムが 1 位でしたが、令和２（2020）年以降はグアムが全減し、令和３（2021）年は香港が首位となりました。

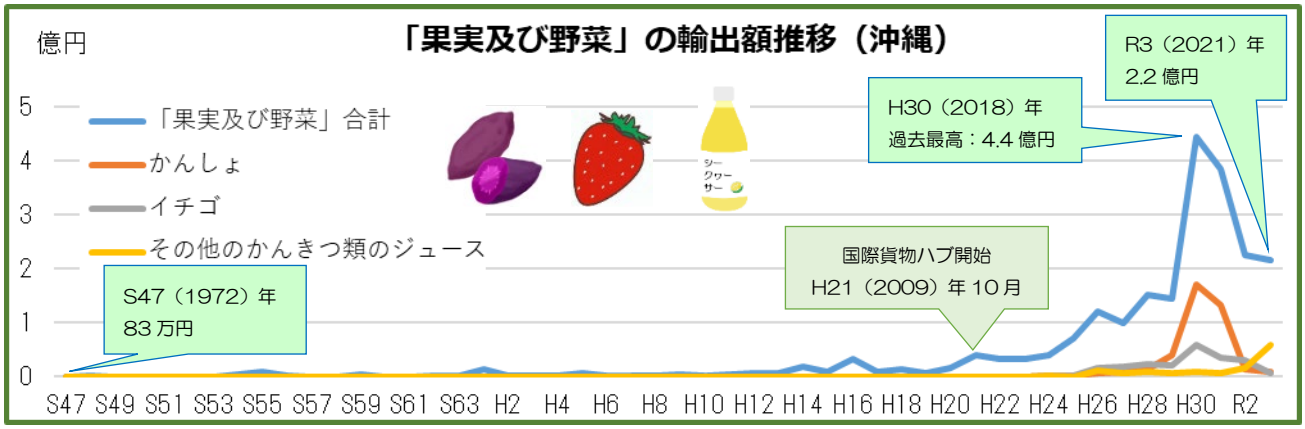
【輸出国・地域別推移】

	1973（S48）	1982（S57）	1992（H4）	2002（H14）	2012（H24）	2021（R3）
１位	台湾	台湾	グアム	グアム	グアム	香港
２位	スペイン	－	ミクロネシア	マーシャル	香港	タイ
３位	米領サモア	－	パラオ	タイ	フィリピン	シンガポール

【上位品目】

	1973（S48）	1982（S57）	1992（H4）	2002（H14）	2012（H24）	2021（R3）
１位	生きている魚（金魚を除く）	生きている魚（金魚を除く）	その他のまぐろ（生鮮・冷蔵）	めばちまぐろ（生鮮・冷蔵）	めばちまぐろ（生鮮・冷蔵）	びんながまぐろ（冷凍）
２位	いか（生鮮･冷蔵･冷凍）	－	きはだまぐろ（生鮮・冷蔵）	きはだまぐろ（生鮮・冷蔵）	きはだまぐろ（生鮮・冷蔵）	その他の魚のフィレ（冷凍）
３位	まがつお以外のかつお（生鮮･冷蔵･冷凍）	－	その他の魚（生鮮・冷蔵）	その他の魚（生鮮・冷蔵）	なまこ（冷凍・乾燥等）	かまぼこ・その他のねり製品

「果実及び野菜」



「果実及び野菜」は復帰の年である昭和 47（1972）年に 35 万 6 千円の輸出が記録されています。貨物の種類や輸出先などの統計データがないため詳細は不明ですが、「果実及び野菜」が古くから輸出対象品目であることが伺えます。詳細がわかるのは昭和 54（1979）年以降で、同年は「干し長切こんぶ」（380 万円）の輸出がありました。輸出額が 1 千万円を突破したのは平成元（1989）年。14 百万円を記録し、「その他のナット・食用の種」が主な輸出品でした。しかしその後「果実及び野菜」は減少傾向が続き、再び 1 千万円を超えたのが平成 14（2002）年の 19 百万円でした。以後、増減を繰り返しながらも平成 26（2014）年には 1 億２０百万円と大台に乗りました。増加の要因に沖縄県が主導した沖縄国際貨物ハブ事業による航空貨物の輸出拡大が挙げられます。平成 30（2018）年は過去最高である 4 億 45 百万円を記録し、そのうち 83.6%にあたる 3 億 72 百万円が那覇空港から輸出されました。しかし令和 2（2020）年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、那覇空港の国際貨物便は運休となり輸出は減少してしまいました。

品目が特定できるもののうち、輸出額が大きかったものに「かんしょ」、「イチゴ」、「その他のかんきつ類のジュース」があります。

◎「かんしょ」（輸出統計品目番号：0714.20-000）

ベニイモ及びサツマイモです。関係者によると、香港ではベニイモはサツマイモに比べて甘味は控えめであるものの、発色が鮮やかで美しいと評判を得ており、お粥など料理の具材に使用されているそうです。そして香港は今焼き芋ブーム。サツマイモの人気も高いことから、現在コロナ禍で運休している那覇空港の国際貨物便が再開すれば、県外産サツマイモも輸出していきたいとのことです。

「かんしょ」は平成 30（2018）年に 1 億 71 百万円と過去最高を記録しました。主な輸出先は香港、シンガポールです。

◎「イチゴ」（輸出統計品目番号：0810.10-000）

高度な鮮度管理が求められるイチゴはアジアへの地理的優位性を活かして沖縄からの輸出が増加しました。県産イチゴは普及途上ということもあり、輸出はほぼ県外産のイチゴになります。関係者によるとアジアでは日本のイチゴは特に人気が高いそうです。コロナ禍前は沖縄国際貨物ハブを利用していましたが、現在はリードタイムの関係からイチゴ産地に近い県外の空港から輸出を行っているそうですが、那覇空港の国際貨物便が再開すれば再び沖縄から輸出していきたいとのことです。

「イチゴ」は平成 30（2018）年に 59 百万円と過去最高を記録しました。令和 3（2021）年の

主な輸出先はシンガポールです。

◎「その他のかんきつ類のジュース」（輸出統計品目番号：2009.30、2009.31、2009.39）

シークヮーサージュースが主な品目です。関係者によると、令和２（2020）年に香港で日本のテレビ番組がシークヮーサーの効能を取り上げたのをきっかけにブームとなり、輸出が増加したそうです。流行の変化が激しい香港だけに、一時期のブームにとどまらないよう引き続き販促活動を行い、商品の定着化と輸出の安定化を図りたいとのことです。

「その他のかんきつ類のジュース」は令和３（2021）年に 58 百万円と過去最高を記録しました。主な輸出先は香港、オーストラリアなどです。

【輸出国・地域別推移】

	2010（H22）以前	2011（H23）	2014（H26）	2017（H29）	2021（R3）
かんしょ	香港	香港	香港	香港	香港
イチゴ	－	－	香港	香港	シンガポール
その他のかんきつ類のジュース	シンガポール	香港	香港	台湾	香港

【上位品目】

	1973（S48）	1982（S57）	1992（H4）	2002（H14）	2012（H24）	2021（R3）
１位	主として食用のその他の植物性生産品	その他の食用の海草	干しこんぶ	食用のその他の海草類（生鮮・冷蔵・冷凍等）	その他の野菜・混合野菜（乾燥）	その他のかんきつ類のジュース
２位	－	－	－	一時保存処理をしたその他の果実・ナット	食用のその他の海草類（生鮮・冷蔵・冷凍等）	トマト（生鮮・冷蔵）
３位	－	－	－	調製・保存処理をしたその他の果実	主として食用のその他の植物性生産品	ぶどう（生鮮）

おわりに

今年から我が国の輸出重点品目に泡盛が加わりました。これにより泡盛の輸出統計番号（輸出統計品目番号：2208.90-300）が新設、地元の「島酒」から世界の「AWAMORI」へ輸出拡大が期待されています。沖縄地区税関では今後の動向を注視してまいります。次号は輸入編をお届けする予定です。

本資料の引用は、沖縄地区税関の資料による旨を注記して下さい。
本資料についてのお問合せ：沖縄地区税関 調査部 調査統計課 TEL 098-862-9650

【本資料について】

※令和２年以前は確定値、令和３年は確々報値、令和４年１～３月は確報値です。

※この資料の昭和 47（1972）年分は５月１５日以降の実績です。

※各品目の統計品目番号等は以下の通りです。

・「魚介類及び同調製品」：昭和 50（1975）年以前は輸出統計品目類番号「03」（魚及びその調製品）、昭和 51（1976）年から昭和 53（1978）年までは輸出品目分類番号「11000」（魚介類及び同調製品）、昭和 54（1979）年以降は輸出概況品コード「007」（魚介類及び同調製品）。

・「まぐろ」：昭和 50（1975）年以前は輸出統計品目番号「031-131」（びん長まぐろ（生鮮、冷蔵又は冷凍のもの））、「031-132」（きわだまぐろ（同））、「031-133」（くろまぐろ（同））、「031-139」（まぐろ（その他のもの）（同））の合計、昭和 51（1976）年から昭和 53（1978）年までは輸出統計品目番号「03.01-123」（びん長まぐろ（生鮮又は冷蔵のもの（フィレーを除く。）））、「03.01-124」（きわだまぐろ（同））、「03.01-125」（くろまぐろ（同））、「03.01-126」（その他のまぐろ（同））、「03.01-213」（びん長まぐろ（冷凍のもの（フィレーを除く。）））、「03.01-214」（きわだまぐろ（同））、「03.01-215」（くろまぐろ（同））、「03.01-216」（その他のまぐろ（同））の合計、昭和 54（1979）年以降は輸出概況品コード「00701012」（まぐろ（鮮魚、冷蔵魚及び冷凍魚））。

・「果実及び野菜」：昭和 50（1975）年以前は輸出統計品目表類番号「05」（果実及び野菜）、昭和 51（1976）年から昭和 53（1978）年までは輸出品目分類番号「13000」（果実及び野菜）、昭和 54（1979）年以降は輸出概況品コード「011」（果実及び野菜）。

・「かんしょ」：昭和 63（1988）年に新設された輸出統計品目番号「0714.20-000」（かんしょ（生鮮のもの及び冷蔵し、冷凍し又は乾燥したものに限るものとし、切ってあるかないか又はペレット状にしてあるかないかを問わない。））。

・「イチゴ」：昭和 63（1988）年に新設された輸出統計品目番号「0810.10-000」（ストロベリー（生鮮のものに限る。））。

・「その他のかんきつ類のジュース」：昭和 51（1976）年（新設）から昭和 62（1987）年までは輸出統計品目番号 20.07-300（オレンジ、グレープフルーツ以外のかんきつ類の果汁）、昭和 63（1988）年から平成 13（2001）年までは輸出統計品目番号「2009.30」（オレンジ、グレープフルーツ以外のかんきつ類の果実のジュース（二以上の果実から得たものを除く。）、平成 14（2002）年以降は輸出統計品目番号「2009.31」（オレンジ、グレープフルーツ（ポメロを含む。）以外のかんきつ類の果実のジュース（二以上の果実から得たものを除く。）でブリックス値が 20 以下のもの）及び「2009.39」（同ブリックス値がその他のもの）の合計。

※参考文献：『外国貿易年表』、『外国貿易月表』、『沖縄地区税関二十年史』（沖縄地区税関発行）、『戦後沖縄経済史』（（株）琉球銀行発行）